

平成 29 年度
学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）

特別な教育的ニーズに対応する人材育成のための

情報支援

—支援教材の作成と ICT を活用した情報提供—

事業成果報告書

北海道教育大学
特別支援教育プロジェクト
平成 30 年 3 月

はじめに

障害者基本法の改正（平成 23 年 8 月）や中教審の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成 24 年 7 月）にも見られるとおり、発達障害などの特別な教育的ニーズを持つ児童生徒への教育実践力の力量形成については、特別支援学校の教員を目指す学生ばかりではなく、通常学級の教員を目指す学生、特別支援学校教諭免許状を持たない、あるいは特別支援学校等に勤務経験のない教員に対しても強く求められている。

北海道は広大な地域にへき地・小規模校が多数存在する。とりわけ遠隔地の小規模校においては、学校の統廃合などにより孤立が進むとともに、貧困や養育困難を背景とする多様な教育的ニーズのある子どもへの対応が求められており、入学から卒業まではもちろんのこと、就労後の支援までを含めた総合的な「地域における発達支援」を見通した教育ができる人材の育成が喫緊の課題となっている。

発達障害に関する専門機関による支援については、遠距離であることから移動や情報のやりとりにおける双方の負担が大きく、対応が遅くなるなどの問題がある。一方、地域の特別支援教育の柱となるべき特別支援学級担当教員についてみると、これまでの調査から、北海道東部のへき地・小規模校の多い地域では、特別支援教育学校免許取得率が約 2 割と低く（札幌近郊の石狩支庁では約 8 割）、また教員経験 5 年未満の教員が担当する特別支援学級が約 7 割を占めるなど、地域格差とともに、その教育力の低さが大きな課題となっている。

北海道における、へき地校や遠隔地の学校に対する課題は、離島地域やへき地校を抱える他の自治体にも共通する課題でもある。本事業では、このような課題に対し、どのような人材を育成することが望まれるのかを模索するとともに、北海道教育大学と地域の機関が協働で支援方法の開発に取り組むことにより、地域学校教育のあり方を模索した。

特に平成 29 年度はこれまでに行った講義や講習会、視察などにおいて得られた知見をもとに、発達障害に関わる理解啓発のための情報収集と北海道各地で現職教員の研修プログラムなどを実施した。さらにこれらの講義や講習会で用いた資料については、北海道教育大学特別支援教育プロジェクト専用の情報配信サーバー（以下、「ほくとくネット」という）に掲載し、これまで作成した補助教材やテキストと併せて公開した。

I. 事業の概要

発達障害児を含め多様な教育的ニーズのある子どもを含めたインクルーシブ教育の実施に向けた環境整備が進められようとしている。特別支援教育の教員のみならず、通常学級における特別な教育的ニーズのある子どもやその保護者に対し、地域の特性に応じた教育的支援ができるような人材育成のための環境構築が求められている。これまで中期計画に基づき進められてきた本学のプロジェクト（H22-27年度）において、特別支援に関する情報提供のシステムを構築してきた。これらを利用し、通常学校ならびに特別支援学校の教員を育成するための支援方法と教材に関する情報提供の環境整備を進めるとともに、その効果に関する資料を収集する。

Ⅱ. 実施内容

1. 情報ネットワークを通じた情報提供のためのコンテンツ開発

(1) 発達障害理解のための研修用教材

- ・発達障害支援のためのワークブックと補助テキストの内容について「ほくとくネット」に掲載した。さらに講習会や講演会、各キャンパスにおける理解啓発のための取り組みなどについて、随時情報ネットワークを通して公開し、各種の情報を活用できるようにした。
- ・「ほくとくネット」のサーバについては、導入から6年が経過し、サーバから異音がするなどの課題が生じたため、情報をすべてレンタルサーバに移行することとした。

(2) 発達障害およびその近接にある子どもたちへの包括的心理・学習アセスメントの実施

- ・発達障害、特に発達性読み書き障害のあるお子さんの包括的アセスメントを実施し、保護者および学校、医療機関へのフィードバックを実施した（なお本年度17件実施）。
- ・主として医療現場と学校現場からの紹介により、各種包括アセスメントを実施し、同時に担当教員へのコンサルテーションも実施した。
- ・これらの取り組みは、アセスメント結果を評価するデータベース構築に関連するものである。

(3) 特別支援教育のアセスメント結果を包括的に評価するためのデータベース構築

- ・包括的な情報が付随する包括的アセスメントデータをデータベースに蓄積し、データベース構築のためのネット環境の整備と情報システムの構築を行っている。
- ・アセスメントデータは現時点で43件である。
- ・引き続き包括的アセスメントデータを継続して蓄積することで、適応行動の程度に及ぼす要因、学習到達度に及ぼす要因、対人関係に及ぼす要因などについても検討し、データベース構築を目指す。

(4) 教材開発

- ・発達性協調運動障害(DCD)を含めた、特に運動コントロールや協調運動に課題のある子どもへの対応方法を検討するため、インクルーシブな身体活動企画を年間を通じて実施するとともに、発達支援のための教材開発を行った。また教材についてはその使い方などを学部学生が学ぶとともに、その様子を「ほくとくネット」に公開するなどの情報支援にもつなげた。

(5) 往還型の人材育成支援の検討

- ・附属特別支援学校との共同による特別支援教員養成カリキュラムの検討を行った。附属特別支援学校に釧路校の学生12名が授業観察に訪れ、授業後のカンファレンスを附属職員と行った。本授業のねらいは次の二点であった。①観察のねらいは・児童生徒の実態把握をするために必要な観察方法、内容を考え必要なデータを収集することができる。②授業を構成的に観察することで、児童生徒を教師、児童生徒間の関係性の視点からとらえ、理解することができる・対象を理解するために必要な仮説生成とその検証のために必要なデータ収集について考えることができる。自閉症及び発達障害の児童生徒の分かりやすい授業づくりやかかわり方、教育課程について等、現場の生の声を聴く機会を作り、研修を深めた。
- ・附属小中学校ふじのめ学級では、特別支援教育専攻の教員との連携のもと、障害児の支援方法に関するとともに、札幌市及び全道の教員を対象にした授業公開と研究会を実施した。その内容については、専攻の学生や大学院生の研修にも活用され支援方法や指導技能の育成におけるフィードバックを行うなど、実践と教育の往還型の人材育成について、情報の蓄積が行われた。

2. 研修会の実施（主催）

- ・平成29年7月22日（土）、八雲町ふれあい交流センターくまいし館にて、「道南地域における現職教員研修プログラム（発達障害児への理解と支援）」を実施し、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員や行政職員総勢50名が参加した。

当日は函館校の教員による講演を「発達障害児の理解（北村博幸教授）」「発達障害児への具体的支援（五十嵐靖夫教授）」「通常学級における合理的配慮に基づく発達支援（細谷一博准教授）」の3部構成で実施し、参加者は発達障害児とその支援の方法について理解を深めた（添付資料参照）。

- 平成29年11月18日(土)、北海道特別支援教育学会道北支部を主催としながら、北海道教育大学旭川校にて「義務教育後の進路はどうなるのか～支援ニーズの現状と課題～」を実施した。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員総勢44名が参加した。
- 附属特別支援学校での次年度の研究や大学と共同で進めている「現職教員のための臨床研修会」の充実に向けて、北海道内の特別支援学校の研修会や他附属の研究会、学会等に参加し、様々な情報の収集を行うことができた。研究テーマや研究の進め方、それぞれの学校がある地域の実態等を把握することができ、本校がこれから進めようとしている研究や取り組みについても多くの成果を得ることができた。
- 各キャンパスと附属特別支援学校の連携を深めるための会議を旭川校にて行い、附属職員を派遣し、公開研修会の状況や研究発表の在り方についての話し合いを行った。
- 支援実践として特別支援学級（発達障害）における大学生のスポーツ指導実践@小学校へ出むいて実施、2017年11月15日、22日、29日、12月19日（岩見沢校：大山）
- アダプテッド・スポーツクラブ（発達障害者に対するスポーツ教室、指導は大学生）の実施（4月7、20、21日／5月12、18、19日／6月2、15、16日／7月7、20、21日／8月17、18日／9月1、15、21日／10月6、10、19、20、24、29日／11月9、10、17日／12月1、14日／1月5、18、19日／2月9、16、22日／3月2、22日、※障害種や程度を問わないことにしているの視覚障害、肢体不自由、知的障害も混ざっている）
- 児童生徒を対象とした障害理解／アダスポ理解教育の実施（10月13、24／11月14、21日／12月1、4、7日／1月18、24、30日／2月6、14日）

3. 研修会、学会および研究大会への参加・助言、情報提供

(一部成果欄に記載)

- ・広島大学附属東雲小学校特別支援学級における附属学校・特別支援学級ネットワーク研修会にて各特別支援学級の研究及び実践交流を実施した。
- ・日本特殊教育学会（名古屋）、LD学会等において、本プロジェクトの取り組みによる成果について報告が行われた。
- ・北海道特別支援教育学会にメンバーが集合し、プロジェクトの進行状況の確認を行った。さらに特別支援教育に携わる地域の専門家の連携などについて意見交換を行なった。
- ・平成29年度北海道教育大学附属旭川幼稚園教育研究大会に共同研究者として参加した（旭川校：萩原）。
- ・旭川少年鑑別所拡大研究会にて、アセスメントの研修会講師を行った（旭川校：萩原）。
- ・旭川家庭裁判所調査官研修にて、発達障害に関わる事例についての講師及び情報提供を行った（旭川校：萩原）。
- ・旭川明成高等学校職員研修にて、発達障害のある生徒の理解及び支援に関して研修会講師を行った（旭川校：萩原）。
- ・滝川市発達支援研修会にて、発達障害のある児童生徒の理解及び支援に関して研修会講師を行った（旭川校：萩原）。
- ・オホーツク地区特別支援教育研究大会にて、講演会講師を行った発達障害のある生徒の理解及び支援に関して研修会講師を行った（旭川校：萩原）。
- ・旭川市教育研究会神居・神楽ブロック研修会でアセスメントの研修会講師を行った（旭川校：片桐）。
- ・北空知特別支援教育研究会にて講演会講師を行なった（旭川校：片桐）。
- ・留萌市教育委員会主催の特別支援教育フォーラムにて講演会講師を行なった（旭川校：片桐）。
- ・旭川市子ども総合相談センター研修事業で、アセスメントに関する助言及び情報提供等を行った（旭川校：蔦森）。
- ・旭川市教育研究会北部・西部ブロック研修会でアセスメントに関する助言及び情報提供等を行った（旭川校：蔦森）。

- ・上川管内教育研究会中部地区研究大会で包括的評価のデータベースに基づき、LDに対するアセスメント等に関する情報提供を行った（旭川校：蔦森）。
- ・東川町特別支援教育講演会で、包括的評価のデータベースに基づき、LDに対するアセスメント等に関する情報提供を行った（旭川校：蔦森）。
- ・北海道美深高等養護学校夏季研修会において、包括的データベースに基づき、LDに対する学習の認知プロセスに関する情報提供を行った（旭川校：蔦森）。
- ・横浜市の小中学校における特別支援教室及び通級指導教室の視察。平成30年1月18日～19日に横浜市立宮谷小学校の特別支援教室，横浜市立平沼小学校，横浜市立仏向小学校，横浜市立共進中学校の通級指導教室を訪れ，教室の運営や指導の実際について視察した（教職大学院：小野寺，函館校：五十嵐）
- ・その資料の一部を平成29年度第2回渡島教育局管内特別支援連携協議会で配布し，横浜市の取組を紹介した。（函館校：五十嵐）
- ・北海道心理・教育アセスメント研究会（青山，五十嵐，北村，小野寺）第1回「K A B C・IIを知ろう」6/17（土）サテライト，46名
- ・北海道心理・教育アセスメント研究会（青山，五十嵐，北村，小野寺）第2回「LD・ADHD等の心理的疑似体験プログラム」9/2（土）旭川，30名
- ・北海道心理・教育アセスメント研究会（青山，五十嵐，北村，小野寺）第3回「LD・ADHD等の心理的疑似体験プログラム」9/9（土）ちえりあ，25名
- ・北海道心理・教育アセスメント研究会（青山，五十嵐，北村，小野寺）第4回「事例検討会」12/9（土）サテライト，22名：2/3（土）ちえりあ，39名
- ・北海道心理・教育アセスメント研究会（青山，五十嵐，北村，小野寺）第5回「事例検討会」2/3（土）ちえりあ，39名
- ・渡島特別支援教育研究会（小野寺）9/24（日）北斗市総合文化センター80名
講演会「子どもの情動と愛着問題を考える」
シンポジウム「愛着に関わる子どもの行動と幼児教育・学校教育の役

割」

- ・北海道学校心理士会研修会(小野寺) 11/3(金) かでの2・7 70名
「心理・教育アセスメントを考える～K A B C - II の理解と活用を通して」
- ・札幌市発達障がい支援研究会(小野寺) 1/11(木) 北九条小学校 50名
「個別の教育支援計画に期待すること～サポートファイルさっぽろをうまく活用するために～」
- ・附属学校・特別支援学級ネットワーク研修会、広島大学附属東雲小学校・特別支援学級 8月9日～8月12日、『北海道教育大学附属札幌小・中学校特別支援学級「ふじのめ学級」について8月10日』（ふじのめ学級：小田有佳里、中禰真介)

Ⅲ・実施計画

1. 年度計画(情報支援の構築)

- ・各種教材の活用方法の開発と検証を各附属学校・附属学級との連携のもとに実施するさらに各キャンパスで取り組む臨床教育の場で、利用状況などに関するデータを収集する。
- ・実践された教材や、得られたデータについて、情報ネットワーク「ほくとくネット」に掲載し広く情報提供を行うとともに、現場や学生に周知していく。
- ・引き続き包括的アセスメントデータを継続して蓄積することで、適応行動の程度に及ぼす要因、学習到達度に及ぼす要因、対人関係に及ぼす要因などについても検討し、データベース構築を目指す。
- ・その他の取り組み成果などについては、紀要などの刊行物として随時公開していく予定。
- ・情報サーバへの情報の蓄積と情報提供
全キャンパスならびに附属学校（特別支援学校および特別支援学級）との協力のもの、障害の児童生徒の発達を促す教材・教具の開発を進めるとともにその使い方や指導方法に関する情報の蓄積を行う。これらの情報については、これまで構築してきた本学の特別支援教育情報サーバ「ほくとくネット」に随時掲載することで、広く情報配信を行う。
- ・特にこれまで開発を進めてきた教材や人材育成に関する情報支援については、さらにその利用方法などに関する検討を進めることで、より効果的な支援方法の開発につながることを期待される。
- ・さらに30年度は教材の評価と再構築として、「特別な教育的ニーズに対応する人材育成のため
の情報支援」として取り組んだ支援教材の作成とICTを活用した情報提供の方法について、学内外の意見や活用方法をモニターすることで、その評価を実施する。さらにこれらの評価をもとにして得られた資料をもとに、教材や支援方法に関する再構築を実施する。全キャンパスの関係教員が協力することにより、地域特性に応じた教材や支援方法、情報支援に関する情報を構築できる。さらにこれらの活動を通して、障害児者の支援方法に関する開発と評価のサイクルを構築するにつながるものと思われる。
- ・学部における教員養成と教職大学院、附属学校（附属特別支援学校・附属札幌小中学校特別支援学級）の連携のもと、障害のある子どもの支援方法と人材育成方法についての検討を進める。

2. 附属特別支援学校、附属小中学校ふじのめ学級と学部、教職大学院の連携事業

- ・各キャンパスで特別支援教育を学ぶ学生の実践交流など幅広い専門性を必要とする特別支援教育の分野において、知的障害のある発達障害や知的な遅れのない発達障害、または社会的養護を必要とする発達障害について、お互いの経験を交流し合うことは、大学全体で特別支援教育の専門性を高めることにつながる。
- ・へき地における研修会の実施及び地域の特別支援教育現場の視察など、研修の機会が少ない教員にとっての研修の提供が可能となり、その後も附属特別支援学校が道内のセンターとしての位置付けを進める。
- ・特別支援学校と特別支援学級の教育課程についての研究として地域の特別支援学校や特別支援学級の教員が教育課程について学ぶことができる研究会や研修会を開催する。
- ・教職大学院との連携として大学院の授業に「特別支援学校における臨床研修」を取り入れ、障害のある子どもたちとのかかわりについて学んだり、特別な教育課程で学ぶ特別支援学校や特別支援学級について学ぶきっかけとする。

IV. 実施成果

1. 教育現場や地域で活用可能な成果等

- ・平成 27-28 年度に文部科学省の予算で取り組まれた発達障害支援のためのワークブックと補助テキストの内容について発展させ、「ほくとくネット」に掲載した。
- ・補助テキストについては、教育現場や地域での理解促進のための教材として活用できるよう、音声付きのパワーポイントデータとしてダウンロードできるように教材開発を行いネット上で公開した。
- ・講習会や講演会、各キャンパスに於ける理解啓発のための取り組みなどについて、随時情報ネットワークを通して公開し、各種の情報を活用できるようにした。
- ・包括的アセスメントを実施し、教育現場へフィードバックすることで連携を図るとともに、コンサルテーションも実施することで、現場の教育力の向上を図った。

2. 成果の公表

(1)著書

・臨床発達心理士認定運営機構 監修、社会・情動発達とその支援（ソーシャル・スキルを中心としたASDに対する支援担当）、ミネルヴァ書房、2017
・小野寺基史・大竹明子・斎藤竜也、言語表現が不得手なアスペルガー症候群の中学3年生～クロスバッテリーによるアセスメント、日本版 KABC-II による解釈の進め方と実践事例、丸善出版、215-231、2017

(2)学術論文

- 1)村山恭朗・伊藤大幸・高柳伸哉・上宮 愛・中島俊思・片桐正敏・浜田 恵
・明翫光宜・辻井正次、小学校高学年児童および中学生における情動調整方略と抑うつ・攻撃性との関連、教育心理学研究、65(1)、64-76、2017
- 2)山下公司・小野寺基史、書字に困難があり学習全般に意欲が低下した小学校6年生男児の漢字学習の取り組み～高い言語能力を生かし、視覚認知の弱さや不器用さへ配慮した指導～、K-ABCアセスメント研究、vol.19、1-9、2017
- 3)小淵隆司「1歳6か月児健診、3歳児健診における社会性発達スクリーニング評価の検討ー感覚の問題に関する「生活問診票」と社会的行動指標を用いてー」、小児保健研究、77巻1号、2018年1月、68-77.
- 4)小淵隆司・戸田竜也「へき地・小規模校における特別な支援を要する児童を包摂する複式学級の柔軟な授業のあり方の検討」、へき地教育研究、72巻、2018年1月、39-45.
- 5)赤木和重・安藤友里・山本真帆・小淵隆司・戸田竜也「複式学級における教育可能性の再発見ー授業づくり・インクルーシブ教育・自尊感情の視点からー」、へき地教育研究,72巻、2018年1月、29-38.
- 6)大山祐太・新堀京花(2018):小学生の障害理解を目的としたアダプテッド・スポーツ授業の開発. アダプテッド・スポーツ科学, 16(1)、査読論文、掲載決定

(3)学会発表、シンポジウム、セミナー等

- 1) 北海道特別支援教育学会第12回大会ポスター発表、安井友康・青山眞二・齊藤真善・三浦 哲・千賀 愛・池田千紗・萩原 拓・片桐正敏・蔦森英史・小淵隆司・阿部美穂子・木戸口正宏・二宮信一・戸田竜也・五十嵐靖夫・北村博幸・細谷一博・大山祐太・小野寺基史(北海道教育大学教職大学院)・附属特別支援学校・附属札幌小中学校特別支援学級 (2017)：北海道教育大学特別支援教育プロジェクトの取り組み～発達障害に関する教職員育成プログラムの開発～、2017.9/30-10/1、札幌医科大学
- 2)北海道特別支援教育学会第12回大会ポスター発表「生活を豊かにしていく力を育てる授業づくり①～主体的・対話的で、深い学びの具現化をめざして～」(白府、江崎、山田、加藤)
- 3)北海道特別支援教育学会第12回大会ポスター発表「教員研修の在り方を考える～現職教員のための臨床研修会の取り組みから～」(郡川孝行)
- 4)北海道特別支援教育学会第12回大会、自主シンポジウム「特別支援教育の対象者をどこまで広げるべきか～発達障害及びその近接領域～」、2017年10月1日、札幌市、蔦森が企画・司会
- 5)日本LD学会第26回大会企画シンポジウム「不器用さのある子どもたち—発達性協調運動障害(DCD)という視点からの理解と支援」、2017年10月9日、宇都宮市、2800人(大会全体)、招待として萩原、片桐が参加
- 6)日本発達心理学会第29回大会 大会企画シンポジウム「実行機能の支援がライフステージ全般に与える影響—実行機能の評価・支援を発達および支援の観点から再考する—」2018年3月23日、仙台市、招待として片桐が参加
- 7)日本発達心理学会第29回大会 自主シンポジウム「成人自閉スペクトラム症の女性への発達支援プログラム—自閉スペクトラム症女性の障害特性に注目して—」2018年3月23日、仙台市、萩原が参加
- 8)日本特殊教育学会(9/16～18)名古屋市、自主シンポジウム企画・話題提供「生活を豊かにしていく力を育む授業づくり～主体的・対話的、深い学びの具現化をめざして～」(白府士孝、中村耕太郎、山田俊寿、清水拓海)
- 9)日本特殊教育学会(9/16～18)名古屋市、自主シンポジウム話題提供「福祉事業所と協働した障害者アート活動を支援する取り組み・心が動く障害者アートで共生社会の実現を目指す。」(土屋和彦)
- 10)奥田知靖・大山祐太(2017)：知的障害者施設における「Ballsschule(バ

ルシューレ) 」プログラムの実践可能性に関する検討ー施設職員の評価を通してー. 第1回障がい者スポーツ関係学会合同コンGRES, 東京, ポスター.

(4) 講演・講習等 (地域人材の育成支援事業)

- 1) 北海道心理・教育アセスメント研究会 (青山, 五十嵐, 北村, 小野寺) 第1回 「K A B C - II を知ろう」 6/17 (土) サテライト, 46名
- 2) 北海道心理・教育アセスメント研究会 (青山, 五十嵐, 北村, 小野寺) 第2回 「L D ・ A D H D 等の心理的疑似体験プログラム」 9/2 (土) 旭川, 30名
- 3) 北海道心理・教育アセスメント研究会 (青山, 五十嵐, 北村, 小野寺) 第3回 「L D ・ A D H D 等の心理的疑似体験プログラム」 9/9(土) ちえりあ, 25名
- 4) 北海道心理・教育アセスメント研究会 (青山, 五十嵐, 北村, 小野寺) 第4回 「事例検討会」 12/9 (土) サテライト
- 5) 北海道心理・教育アセスメント研究会 (青山, 五十嵐, 北村, 小野寺) 第5回 「事例検討会」 2/3(土) ちえりあ, 39名
- 6) 渡島特別支援教育研究会(小野寺) 9/24(日) 北斗市総合文化センター 80名
 - ・ 講演会「子どもの情動と愛着問題を考える」
 - ・ シンポジウム「愛着に関わる子どもの行動と幼児教育・学校教育の役割」
- 7) 北海道学校心理士会研修会(小野寺) 11/3(金) かでる 2・7 70名
「心理・教育アセスメントを考える～K A B C - II の理解と活用を通して」
- 8) 札幌市発達障がい支援研究会(小野寺) 1/11(木) 北九条小学校 50名
「個別の教育支援計画に期待すること～サポートファイルさっぽろをうまく活用するために」

(5) テキスト、報告書、研修資料等

- ・ 研究紀要<第47集>平成29年度全道教育研究大会(特別支援教育)第1要項「思いを实践しながら学ぶ子どもを目指して」<第一年次>～一人一人の”できた”～がみえる授業づくり、北海道教育大学附属札幌小・中学校特別支援学級(ふじのめ学級)

取り組み担当者

青山 眞二・札幌校・教授
齊藤 真善・札幌校・准教授
池田 千紗・札幌校・准教授
千賀 愛 ・札幌校・准教授
三浦 哲 ・札幌校・教授
安井 友康・札幌校・教授
小野寺基史・教職大学院・教授
萩原 拓 ・旭川校・教授
蔦森 英史・旭川校・准教授
片桐 正敏・旭川校・准教授
二宮 信一・釧路校・教授
小湊 隆司・釧路校・准教授
戸田 竜也・釧路校・講師
阿部美穂子・釧路校・教授
木戸口正宏・釧路校・講師
五十嵐靖夫・函館校・教授
北村 博幸・函館校・教授
細谷 一博・函館校・准教授
大山 祐太・岩見沢校・講師
太田千佳子・附属特別支援学校・副校長
ほか附属特別支援学校教員
吉呑 正美・附属札幌小中学校特別支援学級・特命教頭
ほか附属札幌小・中学校 特別支援学級（ふじのめ学級）教員

平成 29 年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）
特別な教育的ニーズに対応する人材育成のための情報支援
—支援教材の作成と ICT を活用した情報提供—
事業成果報告書
北海道教育大学特別支援教育プロジェクト報告
北海道教育大学特別支援教育プロジェクト事務局
北海道教育大学札幌校特別支援教育（安井研究室）
〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目
電話/fax 011-778-0433
発行 平成 30年 3月 31日